

障害者支援施設 ICT機器導入支援モデル事業 事例報告

社会福祉法人 邦友会
新宿けやき園



施設紹介

施設紹介

- 開設：2008年 6月
 - 施設長：杉原素子（2019年4月着任）
 - 所在地：東京都新宿区百人町4-5-1
- ① JR山手線「高田馬場駅」 徒歩8分
 - ② JR総武線「大久保駅」 徒歩8分
 - ③ 西武新宿線「高田馬場駅」 徒歩9分
 - ④ 東京メトロ東西線「高田馬場駅」 徒歩11分
 - ⑤ 東京メトロ副都心線「西早稲田駅」 徒歩12分



介護保健サービス
+
障害福祉サービス

フロア		施設種類	定員
6F	介護老人 福祉施設	特別養護老人ホーム ユニット型個室	20名(10名×2ユニット)
5F			20名(10名×2ユニット)
4F			40名(10名×4ユニット)
3F			20名(10名×2ユニット)
		老人短期入所(個室)	10名
2F	障害者 支援施設	生活介護	20名
		施設入所支援(個室)	10名
		短期入所(個室)	2名
1F		地域交流スペース、医務室、事務室、厨房など	

特徴

。複数の機能を併せ持つ多機能施設

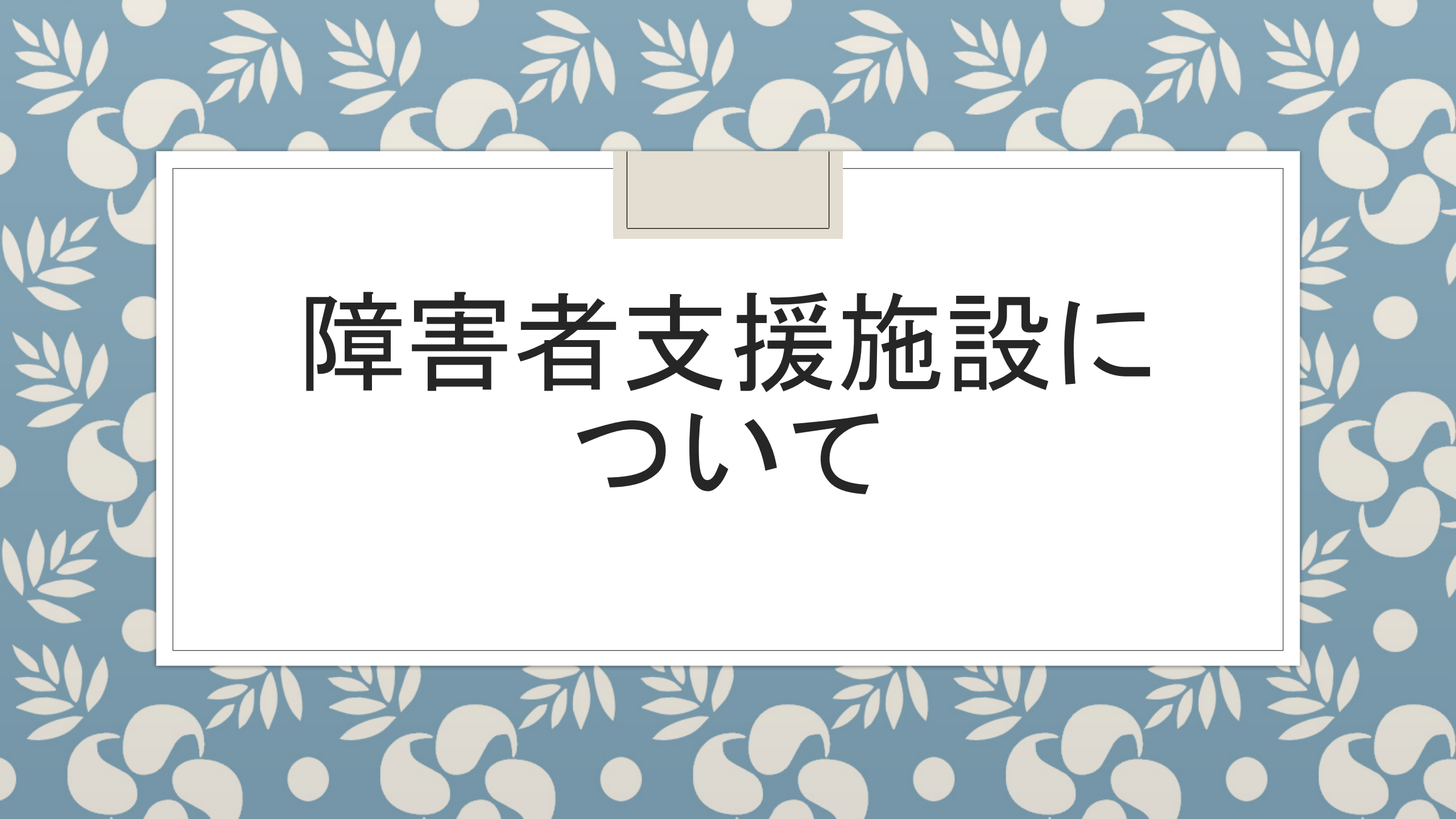
高齢の方々と障害を持つ方々に対する、制度上異なる2つのサービスに基づいており、これらの方々を支援する施設が一緒に設置されているメリットを、施設運営の中で最大限に生かすよう努めております。

。全室個室の快適な生活環境

居室は全室個室でご利用者のプライバシーを尊重するとともに、お一人おひとりが、地域社会の一員としていきいきと輝きながら安心した生活をしていただけるよう、良質なサービスをご提供しています。

。関連施設との連携で医療面におけるバックアップも充実

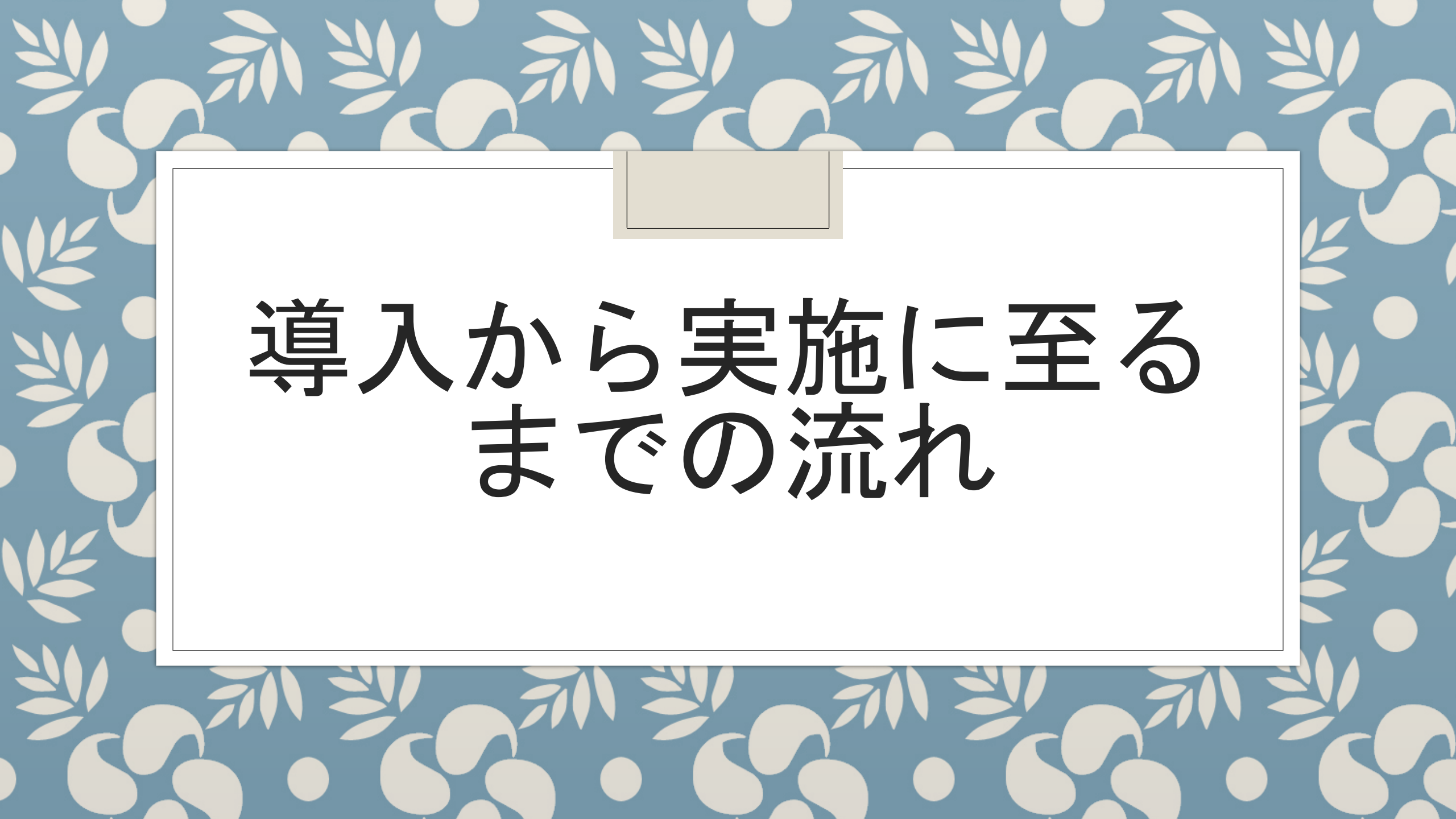
国際医療福祉大学の特長を生かすとともに、主にグループ施設である国際医療福祉大学三田病院と密接に連携し、医療面においてもご安心いただける体制を整えています。



障害者支援施設に ついて

利用者・職員配置について

- 入所者：10名 通所者：20名(内10名入所者)
- 男女比：2：1
- 平均年齢：54.1歳
(20代：5%、30代：5%、40代：20%、50代：25%、60代：40%、70代：5%)
- 平均障害支援区分：5.5(入所者すべて区分6)
- 主な疾患：脳性麻痺、多発性硬化症、統合失調症、脳血管障害、ハンチントン病等
- 職員配置：サービス管理責任者：1名、生活支援員：13名、機能訓練指導員(OT)：2名
常勤看護師：1名



導入から実施に至る までの流れ

導入前の課題整理・改善策

現状の課題を確認

- 〈介助者〉
- 業務中の腰痛頻度増加
- 〈利用者〉
- 介助時の疼痛・外傷
- 高齢化による介助量増加

課題の原因

- 〈介助者〉
- マンパワー不足
- 個人で介助方法が異なる
- 無理な姿勢で介助を行っている
- 〈利用者〉
- 協力動作が行えない

改善策

- 介助方法の統一
- 利用者⇔介助者の負担軽減
 - ↓
- SASUKE導入を検討

導入機器(SASUKE)

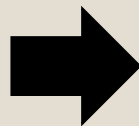


- ・ SASUKE本体 . . . 1台
- ・ 専用シートセット . . . 2セット

対象者選定

〈選定方法〉

- ・ 介助時双方の負担が大きい
- ・ 機器使用が出来る車椅子
- ・ 日常生活の中で使用出来るような方



対象者A（女性）



- ・ 60代後半
- ・ 対麻痺、認知症疑い
- ・ ティルト式自走用車椅子

対象者B（男性）



- ・ 50代前半
- ・ くも膜下出血
- ・ ティルト式介助用車椅子

導入の流れ

8月

- メーカー
来園し
機器紹介



9月

- SASUKE
導入



10月

- 実際場面
での使用



11月

- 対象者A
- 環境調整・
マニュアル
作成



12月

- 対象者B
- 環境調整・
マニュアル
作成

使用の定着に向けて

①機器使用方法の統一

- 機器の動かし方・シートの入れ方・角度等細かく設定したマニュアルを作成

②使用場面の設定

- 使用時間帯・場面を定め義務付けを図る



効果測定

効果検証の方法

①定量調査

アンケートを用いて調査を行う。

アンケート内容

施設の職員に対して以下の通り実施する。

対象者：施設職員全員（可能な限り実施）

尺度：リッカート形式（4択）、自由記述式

実施時期：導入前、導入後

設問：1. 利用者の状態・状況について、2. 支援員の業務・負担について、3. 介助中の支援員の身体的な負担について、4. 介助中の支援員の移乗支援業務について、5. SASUKEの導入・活用について、6. SASUKEの導入で変化が期待される事について、7. SASUKEに対する期待・不安について

②定性調査

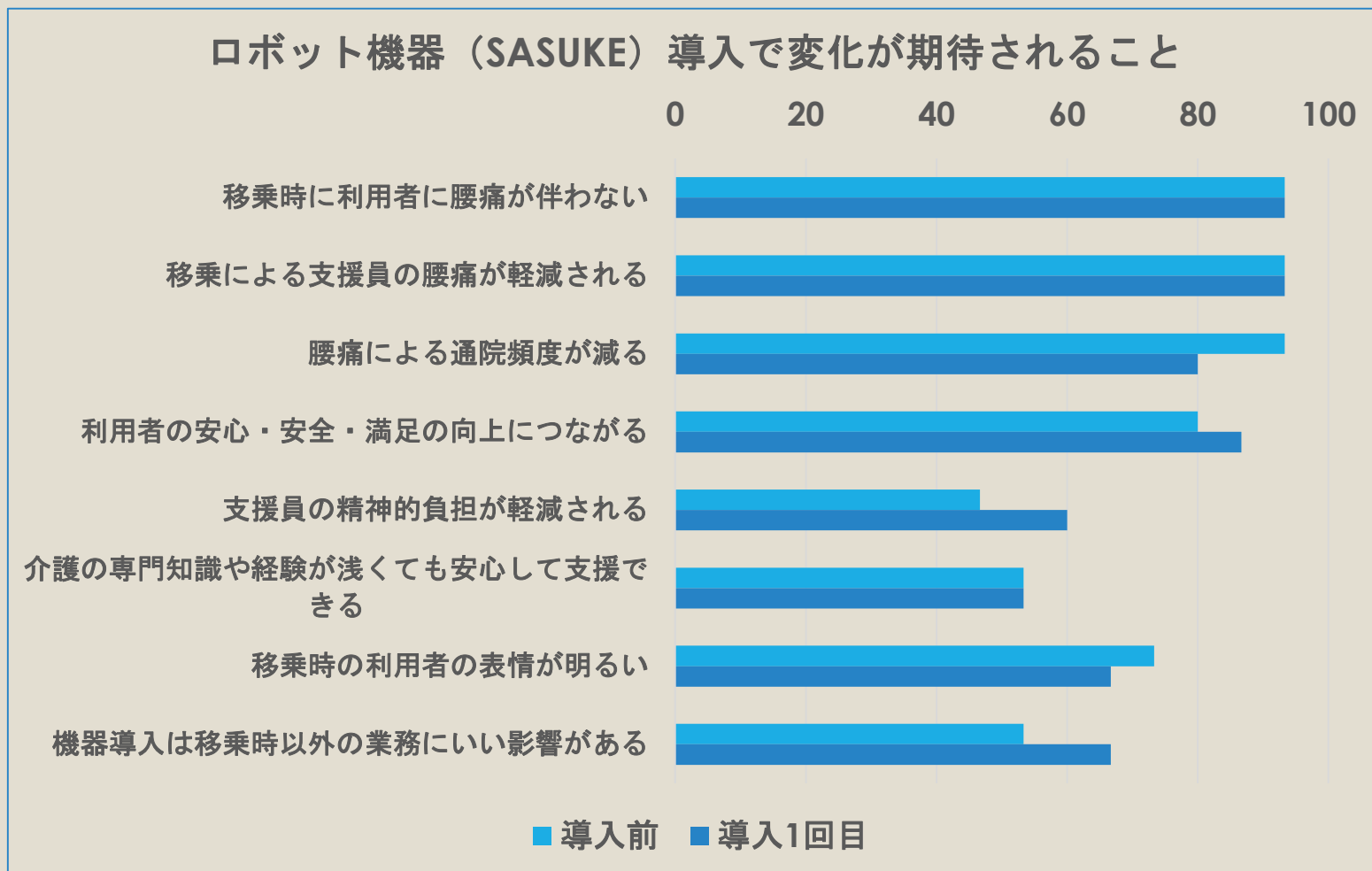
ヒアリング調査

前述のアンケートに基づき、アドバイザーが施設訪問等通じて対面ヒアリング調査を実施し、より深掘りした情報を取得し、整理する。

アンケート結果

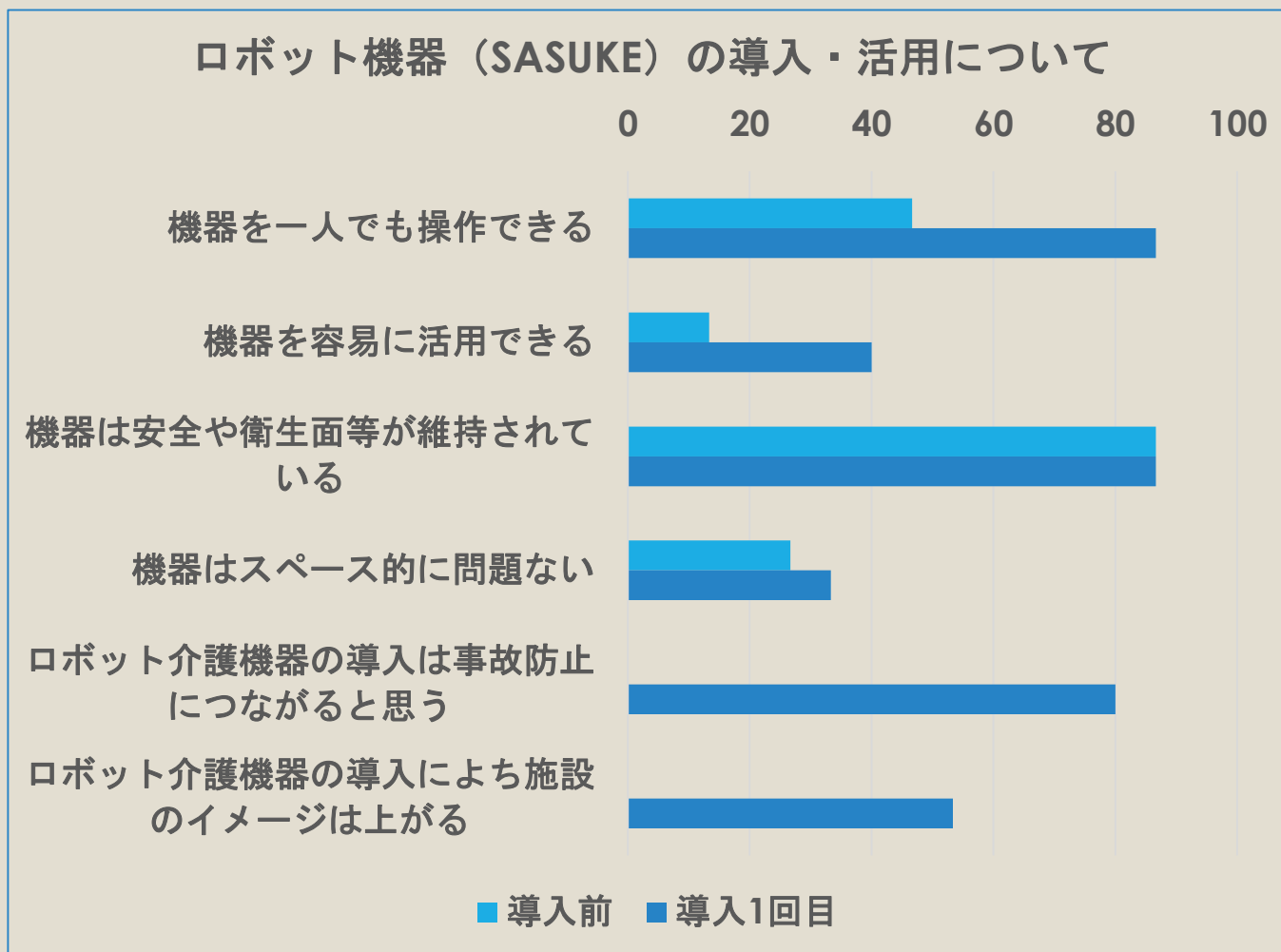
SASUKE導入への期待は、導入のきっかけであった「腰痛軽減」よりも「利用者の安心・安全・満足の向上」と「移乗時以外の業務に良い影響がある」が上回ってきている。

ヒアリングにおいても、「職員全員が関わり、介助方法が統一され利用者の負担が軽減したことで、他の業務に関わる際の余力になっている」という意見が出されている。



アンケート結果

SASUKEは導入前は
「操作に時間がかかる」
など不安があった。
導入後使い慣れると
「容易に活用できる」
「一人でも操作は
できる」と変化して
きている。
機器導入により
「施設イメージは上がる」意見が多く、
ホームページ上に
掲載した。



機器導入後の課題・克服方法

課題① 機器の使用に慣れない

- 複数回の研修・フォローアップ

課題② 動作完了までの時間

- 時間短縮＜両者の身体・精神的負担軽減

課題③ 使用者・使用場面の制限

- 対象者に合わせた使用方法の模索

新たな利用者に向けた取り組み①

対象者C



- 50代後半（約180cm）
- 多発性硬化症
- リクライニング式車椅子

困りごと

- ・ リフト操作可能職員が少ない
- ・ 車椅子→ベッド移乗は2人介助
- ・ 高身長・協力動作できない事により両者の身体的負担



この方に使用
できたら楽だな...

新たな利用者に向けた取り組み②

〈デモ使用後の問題点〉

- シートの長さ
- 車椅子と機器の不具合



〈解決方法の模索〉

- 問題点の共有
- 敷き方のレクチャー
- シートの試作



使用後のフィードバック

〈利点〉

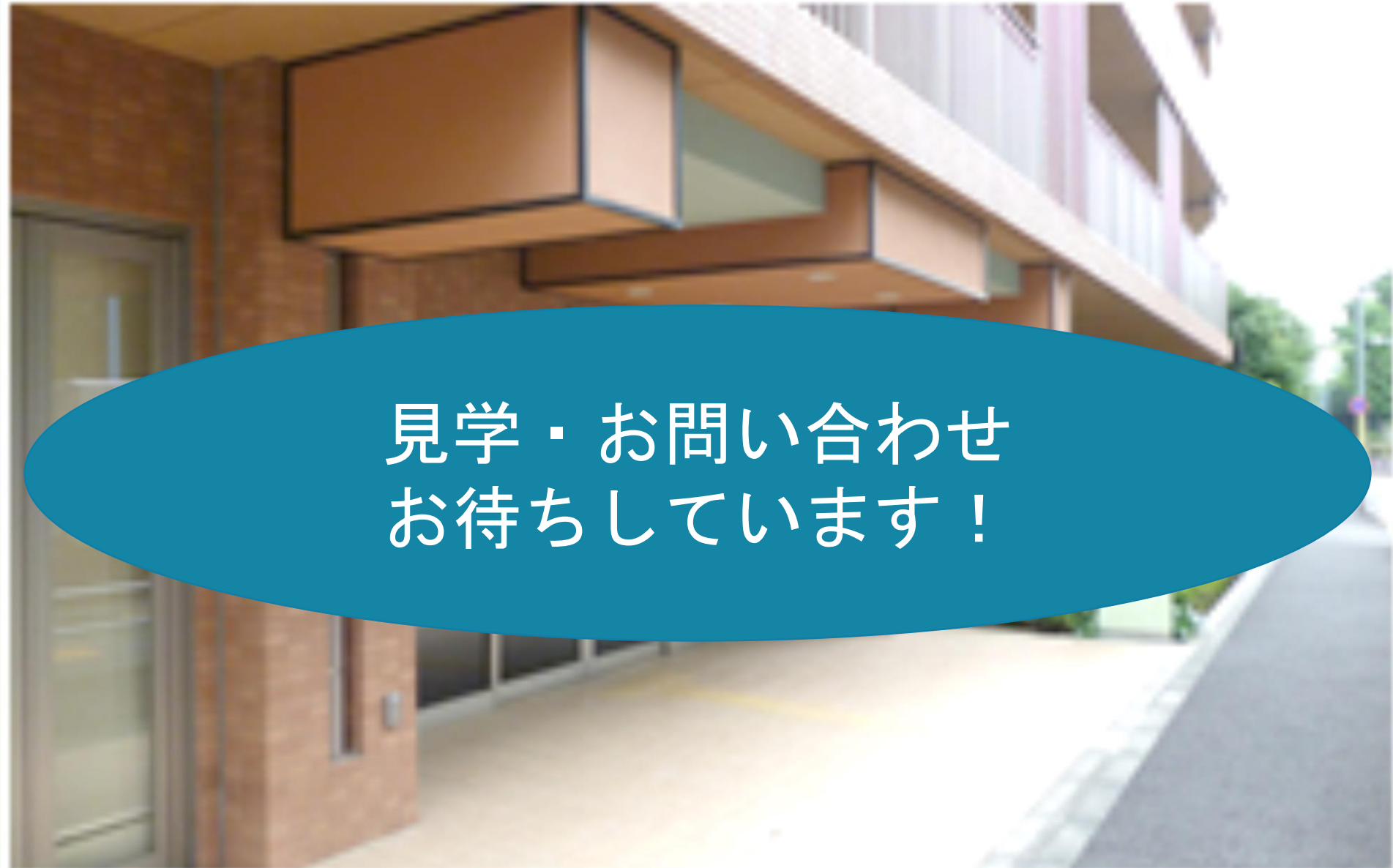
- 両者の身体的負担軽減
- 安定感
- 操作方法の簡略化

モデル事業に参加して得られた事

- 問題解決へ向けてのきっかけ作り
- 職員間同士の話し合い機会増加
- アドバイザーとの連携・協力体制
- 機器メーカーからのサポート体制
- 施設の魅力の向上

検討している事業所に向けて

- 介護ロボット導入に対する施設職員の意識・業務改革
- 身体的負担軽減 > 介助時間短縮
- 利用者の安心感・安定感
- 問題解決に向けて協議するきっかけ作り



見学・お問い合わせ
お待ちしております！

ご清聴ありがとうございます